令和５年度　学校経営報告

東京都立小松川高等学校長
北　江　繁　治

１　今年度の取組と自己評価

【自己評価の基準】A:十分達成できた B:概ね達成できた
C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

（１）教育活動への取組と自己評価

ア　学習指導　**達成度　A**

＜目標＞「授業で勝負」を合言葉とし、質の高い学習指導に向けての授業改善を推進する。

＜方策＞

① 新学習指導要領の理念を全教員で再確認し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組む。生徒の思考力育成に向けて、考えさせる発問やアウトプット（書く、話す、話し合う、発表する）を積極的に取り入れる。

② 課題、補習、小テスト等により基礎・基本の定着を図る。学習課題については内容の精選と教科間での調整を通して、生徒の「やらされ感」を軽減するようにする。

③ 教科内での教材の共有化を進め、定期考査の共通化を継続させる。

④ 全学年で実施される「総合的な探究の時間」の理念と指導法を全教員で共有し、ＰＤＣＡマネジメントサイクルを通して質の高い内容に仕上げていく。

⑤ ２年次の「課題研究」において、１・３学年の担任を除く、全教員（管理職、非常勤教員を含む）で指導にあたる。

⑥ 年２回の「授業見せ合い月間」や生徒による授業評価を活用し、教科ごとに授業改善に取り組む。

⑦ 英語の４技能をバランスよく育成するために、ＣＡＮ-ＤＯリストを中心として、本校の英語教育のスタンダードを確立し、英語教育推進校としての役割を果たしていく。

⑧ デジタル技術を活用した教育の推進を図るため、ＩＣＴ環境の利活用として、無線ＬＡＮ（Wi-Fi）の利用や、「Microsoft Office 365」（Teams等）を全学年で活用する。

⑨ 図書館へ複数配布される新聞紙や「総合的な探究の時間」を活用し主権者教育及び消費者教育を推進する。

⑩ 図書館、学年、教科の連携を通して、生徒の読書活動を推進する。

＜取組・自己評価＞

① 多くの授業でペア学習やグループ学習を通した話し合いの時間が取り入れられていて、自分の考えを発表する機会も設けている。また、「総合的な探究の時間」を始め、教室内や学年単位でのプレゼンテーション等の機会も増加した。調べたことを廊下に展示するなど、成果の「見える化」も進んでいる。

② 学年ごとに教科間の課題量の調整を進めた。「学習課題は進路実現に役立つか」の肯定回答が64%（昨年度57%）であり、生徒の意識は昨年度より肯定的であるが、学年が課題量を調整する必要がある。

③ 考査の共通化は、すべての教科で完了している。

④ 「総合的な探究の時間」では、探究部が中心となり１・２学年において、毎時間の授業案とワークシートにより、「探究入門」「進路探究」「理数探究」「国際理解探究」を実施した。いずれの内容も質が高く本校の特色となり、メディアから取材を受けた。

⑤ ２年次の「課題研究」は、全教員がコーディネーターとして関わって指導、生徒全員が中間発表と本発表Ｉを実施し、最終レポートの提出も達成した。本発表Ⅱは、全員参加で実施した。

⑥ 「見せ合い月間」を活用し、互いの授業を積極的に観察し意見交換を実施した。中には、他教科の授業参観により新たな視点を見つけた教員もいる。

⑦ １、２年はGTECを全員受験し、学年を追うごとに４技能がバランスよく伸びている結果となった。英語検定は校内申し込みを通して、延べ615人が受検した。また、CAN-DOリストに基づき、学期毎にスピーキングテストやパフォーマンステストを実施した。１学年が４月にはTOKYOグローバルゲートウェイ（ＴＧＧ）で半日研修も行った。

⑧ ＩＣＴ教育を促進し、「Teams」による連絡事項・課題配信・オンライン授業等で全学年が活用した。１学年は「Classi」も導入した。教務部を中心に「定期考査採点・分析システム」・「統合型校務支援システム」を実働化し、さらに「一人１台端末」を１・２学年が活用した。

⑨ 全国紙６紙を図書館と廊下にそれぞれ配置し、授業を通して新聞活用を進めた。

⑩ 探究学習での図書館利用も多く、資料の貸出数は一日平均13.5冊であった。
朝日新聞記事データベース「朝日けんさくくん」を昨年度の導入から、活用を継続した。また、蔵書検索については（株）ソフテックの「Lib-Finder」によるインターネット公開により、スマホやタブレットから検索できるようになった。

イ　進路指導　**達成度　A**

＜目標＞　進学指導特別推進校として、本校独自の進路指導計画「ウィンズプロジェクト」を核とし、入学時点から３年間を見通した小松川の進路指導を進路指導部が中心となって推進し、塾・予備校に頼らず、高い目標を持たせた生徒の進路実現につなげる。

＜方策＞

① 進学指導特別推進校として、改善すべきことは東大、東工大、一橋大、京都大、国公立大医学部合格者の人数を１０人以上（昨年度１０人）に継続していく。

② 入学時から生徒と保護者に東大を含め旧７帝大、東工大、一橋大、国公立大医学部の難関大の魅力や良さを情報提供し、目標となるように進路部が中心となって、生徒・教師・保護者とともに学校の雰囲気を醸成していく。

③ 新２年生から、２年の１２月に高い志望を持たせるための「第一志望宣言」を提出させる。

④ 大学入学共通テスト、英語外部認定試験、総合型選抜及び学校推薦型選抜、確実な対応を組織的に情報の共有化を図る。

⑤ e-ポートフォリオを効果的に活用するために教員研修を定期的に実施する。

⑥ 模試結果データに基づいた資料を活用し、最後まであきらめさせない指導を行う。模試分析会に、学年及び教科担当者が悉皆で参加し分析を行い、生徒に情報の還元をする。特に３年生ではケース会議を年２回行い、出願指導等に活用する。

⑦ 進路行事への保護者参加や三者面談の実施を通して保護者と連携した進路指導を展開する。

⑧ 長期休業期間中の講習について、予備校や塾に頼らないことを前提にして、計画・実施する。

⑨ 「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒間で共有させ、家庭学習を一層促す。

⑩ 自主学習を支援するため、放課後に自習できる環境（教室・コマホール）を保証する。

⑪ オリンピック・パラリンピック教育を実践し、東京２０２０大会以降のレガシー構築を見据えて、多様性を尊重する態度を育てる。

＜取組・自己評価＞

① 国公立大合格者が､81名（昨年度84名）と微減したが、東大、東工大、一橋大、京都大国立大学医学部の合格者人数は、６人（昨年度10人）であった。

② 生徒と保護者に東大を含め旧７帝大、東工大、一橋大の難関大の魅力や良さを知ってもらうために、1学年生徒に東北大学、大阪大学、名古屋大学の大学説明会を実施した。

③ ２学年の１２月に高い志望を持たせるための「第一志望宣言」を保護者にも確認していただいた。生徒・教員・保護者の共通理解のもと、高い目標をもって３学年０学期から大学受験を意識させることができた。

④ 教員向けに入試改革・地方国公立の現状などの情報を3回配布した。進路情報として「進路のパズル」を10回発行し必要な進路情報を生徒・保護者・教員に情報共有に努めた。

⑤ キャリアパスポート（e-ポートフォリオ）の校内研修会を実施し、「Teams」または「Classi」を活用して進めている。

⑥ スタディサポート、ベネッセ7月、10月、１月進研模試分析会を１・２学年合同で実施した。３学年は出願指導検討会を６回実施、最後まであきらめさせない指導を行った。

⑦ 11月の「保護者のための進路ガイダンス」は、講師を招聘して実施した。三者面談については、３学年において夏期休業中と２学期に全員悉皆で実施することができた。

⑧ 夏期講習100講座（３年69、２年16、１年15）を実施し、申込者は延べ2954(昨年度2680)人であった。２年生対象のウィンターセミナーは実施し、115名（昨年174名）参加した。

⑨ 入学直後のスプリングセミナーは、学校で１日実施し、「学ぶ意義」について理解させ学習へのモチベーション向上につなげることができた。

⑩ コマホール（自習室）を19時まで開室し特に３学年の自主学習を支援した。２学年の活用が進んでいる。

⑪ 国際理解探究として、２・３学期に「総合的な探究の時間」に夢ナビ動画の中から国際関係学に関する動画を視聴し、それをもとに１４時間かけて探究活動を行った。

ウ　生活指導・健康教育　**達成度　B**

＜目標＞　社会人としての規範意識を身に付けた人間性豊かな生徒の育成を目指す。また、生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう学習環境を整備する。

＜方策＞

① 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を指導方針とし、全教員による一致した生活指導を行い、社会人としての規範意識を身に付けさせる。チャイム始業の徹底はこれまで通り継続する。

② 時間厳守の基本である登校時間について、予鈴までの登校を徹底し、生徒の遅刻防止につなげる。
③ 計画的・継続的な服装・頭髪指導等の身だしなみや校内外での挨拶励行の指導を継続する。
④ 交通ルールの遵守と自転車事故防止に向けた交通安全指導を行う。また、登下校時のマナーやＳＮＳに関するモラルに関する指導も継続していく。
⑤ 体罰の禁止・根絶についての未然防止・早期発見・早期対応を図る。
⑥ 毎月の教育相談連絡会を活用し、生徒の長期欠席やいじめを未然防止する。
⑦ 誰も自殺に追い込まれることのないよう、ＳＯＳを出しやすい環境を作る。
⑧ 校内美化活動、ごみの分別、リサイクル活動の充実を図る。
⑨ 授業日の登下校時以外は校門を閉鎖し、生徒の安全・安心に努める。

＜取組・自己評価＞

① チャイム始業は当たり前のようにできている。部活動延長時の下校時刻ルールや活動場所の美化が遵守できているとは言えず改善の必要がある。
② 生活指導部が毎朝校門に立ち、予鈴までの登校の徹底を目指したが、予鈴後の登校生徒がいる。
③ 服装や挨拶指導において、教員による温度差が大きい。全教員が同じ目線で行う必要がある。
④ 自転車事故が複数回発生し、放送やHRによる注意喚起を繰り返した。未然防止に向けて指導を徹底していく必要がある。教員とともに生徒も朝、校門近辺に立ち交通安全を呼び掛けた。ＳＮＳに関するモラルに関する指導は、入学後の早い時期に行う必要がある。
⑤ 体罰の禁止・根絶については、未然防止・早期発見・早期対応を図ることができた。
⑥⑦ 毎月１回の教育相談連絡会で生徒情報の共有を図った。スクールカウンセラーによる教員へのアドバイスが大変有意義であり、長期欠席の未然防止に繋がる。
⑧ ごみ分別等を保健委員の生徒が主体的に呼びかけられるようになった。生徒の意識も高く、分別、リサイクル共に良好である。
⑨ 防犯の観点から授業時間帯は校門を閉鎖した。

エ　特別活動・体力向上　**達成度　B**

＜目標＞ 特別活動での取組みを通して、人間として成長させる。
「本物を見る・本物に触れる」ことを通して、知的好奇心を引き出し能動的な学習につなげる。

＜方策＞

① 学校行事全体の活性化を進め、全校生徒の成就感や達成感を高める。
② 海外修学旅行の事前準備を新学年と探究部が中心となって計画し、令和６年度に実施する。
③ 部活動は学習との両立を基本とし、合理的かつ効率的に実施する。また、地域貢献ボランティア活動「1部活動一善運動」に取り組む。
④ 理数研究校として、校内・校外での本物体験を推奨し、科学の甲子園やコンテスト等へも参加する。
⑤ 年４回の避難訓練、防災訓練、生徒による防災支援隊を通して、自助・共助の意識を高める。地域の町会からも積極的に参加していただき、地域との連携をより強化した防災教育を実践する。
⑥ 体育の授業や部活動を通して体力向上を図る。体力テストにおいて、すべての学年で全国平均以上となるようにする。
⑦ SSPC指定校として全国大会の上位入賞を目指し、さらにローイング（ボート）部の競技力向上を図る。

＜取組・自己評価＞

① 体育祭・文化祭・合唱祭では、感染症予防に留意して実施した。
② １学年の次年度の海外修学旅行は、海外修学旅行（台湾）を計画した。今年度は海外学校間交流推進校の取組として、オーストラリアの生徒と交流した。
③ 「１部活動一善運動」では、19部の部活動（昨年度は９）が地域貢献活動を実践した。
④ 理数研究校指定の４年目であり、博物館・民間研究所・理化学研究所などの施設見学等を実施した。大学教授による実験講習会や防災科学技術研究所の研究員による講演会などを実施し、延べ523名が参加した。参加した生徒の満足度は高く、意識変容に至っている。
⑤ 防災訓練では２回は教員の役割分担を決めて地震対応、また、水害を視野に入れた訓練、火災対応の避難行動訓練、江戸川消防署小松川出張所所長の講話と１学年を対象に火災発生を想定しての訓練を実施した。
⑥ 部活動加入率は95%（昨年度95%）である。体力テストでは、全ての学年で男女共に東京都平均を上回った。また、女子は2学年および3学年ともに全国平均を上回った。

令和５年度体力テストの結果　　◎：全国平均以上　○：東京都平均以上

	１年男	２年男	３年男	１年女	２年女	３年女
体力合計点 （昨年度）	49.4○ （50.5○）	53.5○ （56.5○）	56.4○ （58.4○）	51.7○ （52.3○）	52.3○ （54.0◎）	52.4○ （57.0◎）

⑦　ローイング（ボート）部は、インターハイの男子舵手付きクォドルプルで５位、国体で６位。３月に開催される全国選抜に出場予定である。

オ　募集・広報活動　**達成度　B**

＜目標＞　本年度は、中学校卒業予定者数増に伴い募集・広報活動の工夫・改善により、応募倍率の向上のため重点的に取り組む。

＜方策＞

①　本校の特色ある教育活動の魅力を伝えられるよう全教職員で共通理解し、広報活動に取り組む。

②　ホームページは、生徒の活躍（学習、行事、部活動等）をタイムリーに学校ホームページに掲載し、日常の学校生活の情報提供に努める。

③　新入生・中学生・保護者等のアンケート結果を分析し、効果的で効率的な募集・広報活動に向けて改善を図る。

④　重点的に学習塾等への訪問をとおして本校の特色ある教育活動を伝え、募集・広報活動を推進する。

＜取組・自己評価＞

①　学校案内の表紙を生徒の美術作品にして、小松川高校のイメージに合った明るい雰囲気にした。

②　学校見学会、説明会、小松川フェスタをコロナ感染症予防対策のため全て事前のオンライン予約制で実施し、参加者が把握できたため丁寧な対応ができた。年間参加者は、見学会合計７回1586名、授業公開3回323名、学校説明会540名、体験授業3回284名、東京都合同説明会193名、個別相談会2回86名、外部説明会926名、総計4159名（昨年度比98.9％ 4205名）が参加した。PTA主催の学校紹介展示を行い細やかな情報を伝えることができた。映像研究部制作の学校紹介動画も好評だった。

③　夏の学校見学会では庶務委員の生徒が中学生等を案内し、非常に好評であった。学校の良さを理解していただくために、生徒をもっと前面に出すようにしたい。

④　新しいホームページは、ほぼ毎日、ニュースにおいて、学校生活の様子や部活動を中心に発信した。
１年生が母校の中学校と通っていた塾に学校案内を持参した。

カ　学校運営・組織体制　**達成度　B**

＜目標＞　ＰＤＣＡマネジメントサイクルを活用した学校運営を推進する。

＜方策＞

①　「Microsoft Office 365」（Teams等）を利用し、ペーパーレスも兼ねた職員会議を開催する。

②　ライフ・ワーク・バランスの実現に向けて、校務を効率化し、月２回以上の定時退勤を徹底する。
部活動指導員・外部指導員の活用、会議時間の短縮、およびＩＣＴの有効活用を進め、働き方改革につなげる。

③　「チーム小松川」として、協力して新しい時代の学校を創り上げていく職場環境作りを進める。

④　探究部を中心として、学校が直面する課題をとりまとめ、全教員で校内研修を行う。

⑤　すべての分掌・学年・教科が年度当初に組織目標を定め、中間報告、年度末総括を行う。

⑥　より良い学習環境に向け施設・設備の管理・保全と迅速な補修に努め特別教室の冷房化を推進する。

⑦　経営企画室において、経営参画ガイドラインを活用して、資質・能力と経営参画意識の向上を図る。

＜取組・自己評価＞

①　資料で確認する方が効果的と思われ、ペーパーレスも兼ねた職員会議を開催することができなかった。

②　部活動指導員を12名（昨年度13名）配置でき、活用が進んだ。超過勤務の教員数は昨年度より減少し、会議時間が短縮化した。

③　日々のメールでの連絡が効果的に機能している。

④　「Classi」及び「定期考査採点・分析システム」の操作方法、観点別評価等の校内研修会を全員で実施し、全教員に方法等について周知を図った。

⑤　年度当初の組織目標設定、中間報告、年度末総括を通して、課題等を全教員で共有する流れができている。

⑥　トイレの洋式化率は90％を超えた。特別教室を含め教室の空調は完備した。

⑦　行政系職員の意識が高く、学校全体を支える組織になっている。特別教室の冷房化も順調である。チャレンジ雇用も定着している。図書館専門員２名の配置で、土曜授業日も開館できている。

（２）重点目標と方策(数値目標)

ア　生徒の学校に対する満足度（学校評価アンケートにおける肯定割合）

項　　目	目標値	今年度（昨年度、一昨年度）	達成度
① 学校生活の満足度	90%以上	88%（85.0　90.0）	B
② 進路実現に向けての授業の満足度	80%以上	78%（76.0　80.0）	B
③ 講習・補習への満足度	90%以上	80%（80.0　87.0）	B
④三大学校行事に対する満足度	85%以上	82%（68.0　77.0）	B

「この学校に入学してよかった」に対する肯定割合も生徒85%、保護者93%と高い。

イ　生徒の希望進路の実現

項　　目	目標値	今年度（昨年度、一昨年度）	達成度
①　国公立大学合格者数（現役のみ）	100名以上	81名（84　86）	B
②早・慶・上智・理科大合格者数（現役のみ）	80名以上	101名（82　69）	A
③学習院･明治･青山･立教･中央･法政大合格者数(現役のみ)	250名以上	323名（268　272）	A
④現役進学率	90%以上	93.6%（91.9　92.7）	A

ウ　大学入試センター試験の結果

項　　目	目標値	今年度（昨年度、一昨年度）	達成度
① 大学入学共通テスト出願率	95%以上	99.6%（99.4　99.4）	A
② ５（６）教科７科目型の受験者	120名以上	172名（163　146）	A
③ 80%以上の得点者が受験者の半数以上の科目	5科目以上	１科目（1　2）	B

エ　授業改善に向けた校内研修の実施

項　　目	目標値	今年度（昨年度）	達成度
授業に対する校内研修（授業の見せ合い）への参加率	100%	100%（100　100）	A

オ　応募倍率の向上

項　　目	目標値	今年度（昨年度、一昨年度）	達成度
推薦選抜応募倍率（男女平均→合同選抜）	3.5倍	2.19倍（2.32　2.62）	B
学力選抜応募倍率（男女平均→合同選抜）	1.5倍	1.22倍（1.23　1.38）	B

カ　文武両道の実現

項　　目		目標値	今年度（昨年度、一昨年度）	達成度
① 家庭学習時間（学年＋１時間）	１学年（２時間以上）	120分	平日　72分(85　89) 休日　118分(125)	B
	２学年（３時間以上）	180分	平日　82分(86　97) 休日　132分(132)	B
② 勉強と部活動との両立に対する肯定割合		75%以上	66%（63.0　65.0）	B
③ 遅刻者数（学校全体の１日平均）		3人以下	13.0人（7.6　3,9）	B

２ 次年度以降の課題と対応策

① 昨年度に引き続き、新型コロナウイルスとインフルエンザ感染症防止対策の対応ため、ICT化の利用の効果が大きかった。始業式・終業式の工夫や、登校できない生徒のオンライン学習支援を行った。また、新学習指導要領の理念を踏まえて「観点別評価」について、全教員で再確認し、評価の精度を高めていく。

② 今年度の進路結果を分析し、課題を明確にする。進路指導部を中心とした進路指導を通して、より組織的な進路指導を実現する。また、保護者会（学期に１回）、二者面談、三者面談、「保護者のための進路ガイダンス」、個別進路相談窓口等を継続し、保護者に対して幅広い進路情報の提供を行い、進路意識を高めていく。

③ 「大学入学共通テスト」対策については、学校全体として各教科で分析も含めて取り組んだ。

④ 挨拶、身だしなみ、時間厳守等の指導を継続する。特に、部活動延長時の下校時間厳守を徹底する。

⑤ 今年度２回目の探究学習の「課題研究」を本格的に展開するように実施した結果、教科学習、進路学習、行事や部活動などの学校生活を生徒自身が主体的に創っていくという面で、21世紀の教育が求められている力を涵養している。そのため、今後も全教員体制で取り組む。

⑥ 来年度は、ますます本校の特色ある教育活動を教職員で共通理解し、より効果的な募集活動を行う。また、ホームページを活用し、日々、情報発信を実施する体制を構築する。